

SDGs（循環型社会の構築）実現推進事業の実施結果について

【イベント名】

循環型地域社会の発展・廃プラスチック問題の解決に向けて
～排出事業者と処理業者の相互理解・連携のためのワークショップ～

【開催日時】

令和3年2月4日（木）13時～17時30分 オンライン開催

【参加者数】

排出事業者：15名 処理業者：17名

【プログラム】

○基調講演「廃プラ問題における廃棄物処理法の課題について考える」

BUN環境課題研修事務所 長岡文明氏

○排出事業者と処理業者の連携事例紹介

「産業廃棄物からのマテリアルリサイクル事例－資源循環型製品の開発に向けて－」株式会社パンテック
「ENEOSの考える廃プラスチックの油化リサイクル」ENEOSホールディングス株式会社

○ワークショップ

参加者が6グループに分かれ、資源循環の取組や課題、今後の廃プラスチック類の資源循環を推進するための解決策、排出事業者・処理業者で連携できる取組等のテーマについて、意見交換を行った。

【ワークショップにおける意見の概要】

[分別について]

- ・ 排出事業者によって分別の精度が異なる。リサイクルするためには、リサイクル製品の品質を確保できる分別が必要である。（処理業者）
- ・ どこまで分別すれば良いか知りたい。（排出事業者）
- ・ 処理業者から分別のコンサルティングをしてもらいたい。（排出事業者）
- ・ どのように分別すれば有価になるのか提案型の営業、コンサルティングを行っていく。そのための社員教育を行う。（処理業者）

[需給バランスについて]

- ・ 単一素材が不足している。（処理業者）
- ・ 排出抑制の取組が、リサイクルにとっては、供給不足になる面がある。（処理業者）
- ・ 廃棄物発生量と再資源化施設の規模にギャップがある。（排出事業者）
- ・ どのような廃プラスチックが循環していないのか特定することが大切である。（処理業者）

[コストについて]

- 有価物としての価値を上げたい。(排出事業者)
- 自社内で循環利用したい。コストを極小化したい。(排出事業者)
- 処理コストを下げることを優先するとリサイクルが進まない。(処理業者)
- リサイクル品の活用と廃棄物の処理コストをトータルで見られるようにしたい。(排出事業者)
- 資源循環のメリットがわかれば、社内の合意形成ができる。(排出事業者)

[廃棄物の回収について]

- 中小企業からは排出量が少なく、回収に課題がある。(処理業者)
- 自社のみでは少量で、回収効率が悪い。(排出事業者)
- 分別を徹底したことで量が減り、回収が難しくなった。(排出事業者)
- 同業組合と連携して、計量パッカーで小ルート回収を実現させた事例がある。(処理業者)
- ルート回収の可能性を検討してほしい。(処理業者)

[情報収集について]

- コンサルを使った調査、処理業者からの情報提供により情報を得ている。(排出事業者)
- 業界誌、インターネット等により、情報収集を行っている。(処理業者)
- 京都工業会など団体の勉強会等で、情報交換の場がある。(処理業者)
- マテリアルリサイクル事例の情報が共有できれば、推進できるのでは。(排出事業者)
- 情報を集める時間がない。(排出事業者)
- リサイクル業者の情報について、閲覧性の高いサイトが欲しい。(排出事業者)

[事業者間の連携について]

- 今回のような情報交換の場を継続的に設定すれば良い。
- 排出事業者と処理業者のマッチングができるとリサイクルが進む。
- リサイクル方法がないものについて、製造メーカーの協力、情報共有が必要である。
- メーカーは、製造段階から捨てることを考えて作ることが大切である。
- 原料メーカーや物流業者なども、情報交換に入れたらどうか。

【イベントに関するアンケート結果】

- 全体の満足度については、25名中24名が「有意義であった」「やや有意義であった」と回答
- 25名中12名が「業務に活かせる気付きがあり、今後具体的に取組んでいく予定」「業務に活かせる気付きがあった」と回答